

5 歳児 すみれ組

「つぼの中には何がいる？」

カラカラ積み木を積み上げて、壺を作りました。その様子に他の子ども達も気付いて集まってきました。

この中にはヘビが
いるんだよ！



ヘビのご飯
いるかな？

「つぼの中にヘビがいるんだ！」と、一人の子が自分の持つイメージを話すと、「僕もヘビを作ってくる！」「ごはんもいるよね！」と続々と意見が出て、そのイメージに合う物を他の子ども達も作り始めました。画用紙でヘビの絵を描いたり、トイレットペーパーの芯に紙を巻いてヘビにしたり、花紙でイチゴを作ってご飯にしたりとイメージを膨らませて制作をする友達の姿を見て、「いいね！」「どうやるの？」と作り方を聞きながらどんどん遊びが発展していきました。

子ども達は、同じイメージを持って遊ぶ中で友達の良さに気付いたり、工夫する楽しさを見出したりしています。保育士は、子どもが多様な関わりが持てるように援助し、遊びの中で共通の思いや目的が生まれ、工夫したり、協力したりする楽しさを十分に味わえるようにすることを大切にしています。